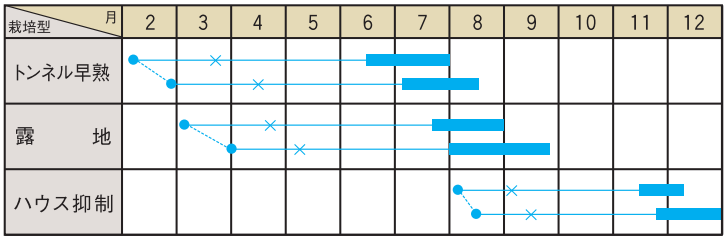
F1 カボチャ

あかまろ

特徴

○赤皮では珍しいホクホク食感の粉質品種。
○果実は花落ち部が尖る中玉種で果重は約 1.6 kg。整枝栽培では 2 kg台も狙える。
○2 週間～ 1 ヵ月のキュアリングにより甘味が際立つ。
○着果の揃いが良いため放任栽培でも収穫時期が分かりやすく栽培しやすい。

■栽培適期表　（近畿標準）



記号説明　●:播種　×:定植　—:栽培期間　■:収穫期間

栽培方法

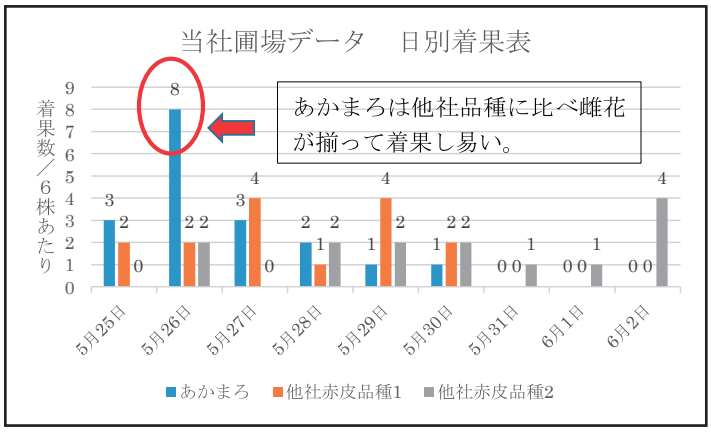
＜つるの仕立て方＞
放任栽培の場合は株間 100 ～ 110 ㎝を基準とする。
子づる 3 本整枝を行う場合、5 節程度で親づるを摘芯してから勢いのある子づる 3 本を伸ばす。その後着果節位までの側枝を摘除する。

＜交配＞
11 節目以降につく雌花に着果させる。大玉収穫を狙う場合は高節位着果が望ましいため 18 ～ 21 節前後に着生する雌花に交配させる。果実を安定的に肥大させるために、収穫期までに茎葉を健全に維持する。草勢を見て追肥または整枝・摘果を行い、病害虫の防除は適切に行う。

＜収穫＞
収穫の日数目安としては交配後 45 日。果梗部 (軸) が 70％程度コルク化すれば収穫目安となる。収穫直後は甘味が少ないのでキュアリング処理 (高温と直射日光を避けられる涼しい場所に置き、花梗部などの切断面を乾燥させる) を行う。
キュアリング後は日持ち性が増し、追熟によるデンプン糖化によって甘みが向上する。あかまろの場合は 2 週間～ 1 ヶ月で食べごろとなる。

＜栽培ポイント＞
○元肥の過剰施肥に注意し生育初期の過繁茂を防ぐ
○元肥には有機肥料を利用するなど、栽培後半の肥効を維持する
○果実の揃いを良くするためには、同一株で着果日に差が生じないように人工交配で確実に着果させると良い。

＜貯蔵性向上のコツ＞
○果実の若穫りを避ける；果梗部のコルク化の割合がおよそ 7 割以上になる。または果皮の光沢、べたつきが無くなった頃が収穫の目安。
○果実を日焼けさせない；直射日光を果実に当てないために、着果後の草勢を維持し、収穫まで葉を枯れさせず健全な葉を保たせる。また株元の葉は比較的に枯れ上がりやすいので低節位着果を避ける。
○果実表面の雑菌繁殖を防ぐ；雨天時の収穫や泥の着いたハサミでの収穫を避ける。
○貯蔵環境を整える；果実は積み上げすぎずに 10 度前後の風通しの良い冷暗所で保管する。



※奈良県当社圃場　放任栽培　4 月 20 日定植　7 月 12 日収穫

株式会社 大和農園